

科目名	機能性構音障害			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	担当学年	2年	前期
【授業の目的・ねらい】 構音器官の機能解剖および構音動態を知り、臨床の基本となる構音を聴き取る力、表記する力を身につける。 また、機能性構音障害の基本的な評価と指導法を身につける。								
【実務者経験】 言語聴覚士として大阪発達総合療育センター、にこにこハウス医療福祉センターにて、発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 機能性構音障害の発現メカニズムや特徴を理解でき、評価・訓練とその基本的な技法を習得することができる。臨床と国家試験に即した基礎的な知識を身につける。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語聴覚士が行う、機能性構音障害の基本的な評価と指導法を理解し実践できる。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	機能性構音障害についての概要を説明できる							
2	発声発語器官の発生と機能解剖について簡単に説明できる							
3	正常構音の動態について理解する①							
4	正常構音の動態について理解する②							
5	主な構音障害の聴き取りができる①							
6	主な構音障害の聴き取りができる②							
7	構音障害の音声表記を理解できる							
8	構音の評価ができる①							
9	構音の評価ができる②							
10	構音の評価ができる③							
11	構音指導法が理解出来る①							
12	構音指導法が理解出来る②							
13	構音指導法が理解出来る③							
14	まとめ①							
15	まとめ②							
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚療法シリーズ 改訂機能性構音障害								
【準備学習・時間外学習】 授業の復習を行う事、必要に応じ、小児セラピーの症例見学								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 定期試験にて100点満点の試験を行い、60点以上を合格とします。								